



波間より

10月6日

Sudden Fiction Project

高階經啓
hirotakashina

10月6日のおはなし「波間より」

海岸漂流物収集家が砂を踏みしめてやってくる。昨夜は風も強く波も高く夜のうちに潮が満ちた。いまはすっかりそれが引いている。こんな日はたくさんの海岸漂流物があるものだ。流木。珍しい貝がら。大ぶりで綺麗な石。魚の骨。椰子の実。釣り具。外国の言葉が記された何かのパッケージ。そして海水と砂に削られたガラスの破片。

君は浜辺に打ち寄せる波がちょうど届くあたりでちゃぶちゃぶと海水に洗われている。向こうから歩み寄る海岸漂流物収集家を見て君はため息をつく。なんという姿だろう。遙か東の空にぼかりぼかりと浮かぶ雲を真っ赤に染めていままさに日がのぼらんとしている。朝焼けを背に、そのシルエットは幻想的な影絵のようにも見える。気がついてくれるだろうか。ああ。自分に気がついて拾ってくれるだろうか。

海岸漂流物収集家が歩みを止めて何かを拾う。違う違う。そんなんじゃなくてこっちに来てよ。1日の最初の光を浴びて君は、きらめき始めた波の下で身を揺する。水を通して見る景色はゆがんで見えて、海岸漂流物収集家が突然消えて見えなくなってしまうたりもする。見えたかと思うと、その手には美しく角の丸まった大きなガラス片が握られているのが見えたりもする。

それを見て君は悲しくなる。すっかり悲観する。ああだめだ。あんなに立派なガラス片を手に入れたらもう今日はおしまいにしてしまうに違いない。事実見ていると海岸漂流物収集家は方針を変えたらしく流木を拾い始める。鹿の角のような流木。呪われた生き物の顔のような流木。ずんぐりした仏像のような流木。骨のように白い流木。しかもだんだん遠ざかってしまう。

その時風が吹き、海岸漂流物収集家の帽子がふわりと舞い上がる。つばの広いその帽子は風に乗ってこちらへ飛んでくる。君は動転する。帽子に隠れて何も見えなくなったからだ。どこへ行った？ 見失ってしまった。長い長い距離を越えてはるばるここまでやってきたのに。やっと会えるところまでやってきたのに！ でももちろん心配することはない。君の目が見えないのは帽子のせいなのだから。そして間もなく帽子は持ち上がるだろう。帽子を拾い上げると同時に海岸漂流物収集家は君に気づくだろう。

君を拾い上げたら彼女は彼女の国の言葉で「あら、子犬みたいね」と言い、そして君をペンダントにするために胸ポケットに収めるだろう。

(「海岸漂流物収集家」 ordered by delphi-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブックログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただけると大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできるのですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験

済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上げてまいりましょう。

波間より

<http://p.booklog.jp/book/35040>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/35040>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/35040>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.